

令和2年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

除雪も駆除も援農も 山間地で関係人口を増加させるむらづくり

○集団等の名称 湯原集落協定（代表 山田 益広）

○所在地 宮城県刈田郡七ヶ宿町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

七ヶ宿町は宮城県南西部、山形・福島両県境に位置する県内有数の豪雪地帯で、山林が9割以上を占める山間地域である。湯原集落は、町の最奥地、白石川源流に位置し、古来より「そば」と山間地の清流を活かした米の生産が行われている。

集落の主産業は農業であるが、世帯数の減少や高齢化が進み後継者も少なく、将来的な農地の維持管理と集落機能の維持が危惧される状況にあった。

・むらづくり組織の概要

湯原自治会の全面的な協力のもと、中山間地域等直接支払交付金の活動母体である湯原集落協定（以下、「集落協定」）を中心に、集落の認定農業者、農業法人、多面的機能支払交付金を活用した活動組織である湯原集落農業協力隊（以下、「農業協力隊」）及び七ヶ宿町との連携体制により運営されている。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

① 担い手への農地集積を進めるため集落協定を締結し、また、集落内の非農家も参加して農業協力隊を立ち上げ、耕作放棄地の発生防止と多面的機能の維持、鳥獣被害防止対策に取り組み、平成12年以降作付面積約47haを維持している。米づくりでは、「七ヶ宿源流米ネットワーク」が組織化され、土壌改良や水質浄化により、全国食味コンクールで金賞を受賞した良食味米を栽培している。

② 播種時期の分散による気象リスクの回避や開花期間中の放蜂による結実率向上を図るなど、そばの栽培方法を工夫し、平均単収60kg/10a（県平均22kg/10a）と高収量を実現している。

（2）生活・環境整備面

① ボランティアによる鳥獣害防護柵設置や除排雪により、農地の維持・管理、生活環境を維持している。自治会では、ボランティア募集のチラシづくりや大学等への声かけなどを行い、援農ボランティアの運営等も担っている。

集落協定では、来訪するボランティア等と集落住民との交流の場を積極的に作り出すとともに、地区の夏祭り等を通して非農家との交流にも取り組んでいる。

② 地元企業社員とその家族が湯原集落を訪問、七ヶ宿源流米ネットワークと共同で農作業体験を行うイベントが開催されている。また、農業法人が町内そば屋とともに「新そばまつり」を開催し、毎年2,000人を超える人出で賑わっている。

③ 集落内非農家は農業協力隊に参加し、農家との協働による集落の維持管理に取り組み、同隊の隊長の任を担っている。女性は景観づくりや交流時における食事提供などに加え、女性中心の自治会組織や女性のみで構成された郷土芸能組織もあり、集落では多くの場で女性の活躍が発揮されている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、地域の課題に対し地域の内外からボランティアを募る仕掛けづくりに成功している事例であり、今後とも取組の継続が期待できる。

条件不利な山間地域にあって、集落の課題解決を関係人口の増加に結びつけながら、各組織が連携し合って農地と生活の基盤を管理している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。